

令和5年度

七宗町立神淵小学校

校報 No.2



かぶち



令和5年4月26日

最後までやりぬく子の育成

校長 社本 教恵

新年度が始まり、1か月が経とうとしています。保護者の方や地域の皆様におかれましては、登下校時の見守りのご協力、誠にありがとうございます。私も、毎朝子どもたちの通学路を歩いたり、スクールバスに乗り地域に出かけたりして見守り活動をしています。子どもたちに出会うと、元気に「おはようございます。」のあいさつをしてくれます。私からあいさつをすると、しっかりと私の目を見てあいさつを返してくれる子どもたちも多いです。うれしさとともに、元気をたくさんもらっています。入学式の児童お祝いの言葉の中で、「神淵小学校はあいさつを大切にしている」ことを話していました。まさにその姿です。自分たちで大切にしたいことを守りながら続けていく神淵小学校はとても素晴らしいです。



さて、この1か月の中で、次のような素敵な姿がありました。校庭の鉄棒で、逆上がりの練習をしていた子どもたちのことです。小さめの鉄棒ではできるのですが、高い鉄棒ではうまくできません。しかしこの子たちは、簡単にあきらめることはありませんでした。居合わせた友達や先生に進んでアドバイスを求め、何度も何度も挑戦していました。そして、ついに達成！本人はもちろんですが、仲間や先生とともに喜びを分かち合っていました。これは、この子にとって、大切な経験になったと思います。逆上がりができるようになったことだけでなく、挑戦や努力の大切さを実感できたことです。

学校生活では、この逆上がりのことのように、小さな感動が日常的にあります。逆に小さな失敗も毎日のようにあります。学校は、この小さな感動や小さな失敗を、大きな生き方につなげていくところです。私は、大きな生き方につながる成長の種を見つけるのが大好きです。小さな感動や小さな失敗は、家庭や地域の生活の中でもあります。私たち大人の役割は、この小さな成長の種を、大きな生き方につなげるよう、励ましたり、ほめたり、ときに叱ったりすることです。ご家庭や地域の皆さんとともに、神淵の子どもたちを大きく育てていけたらと思います。